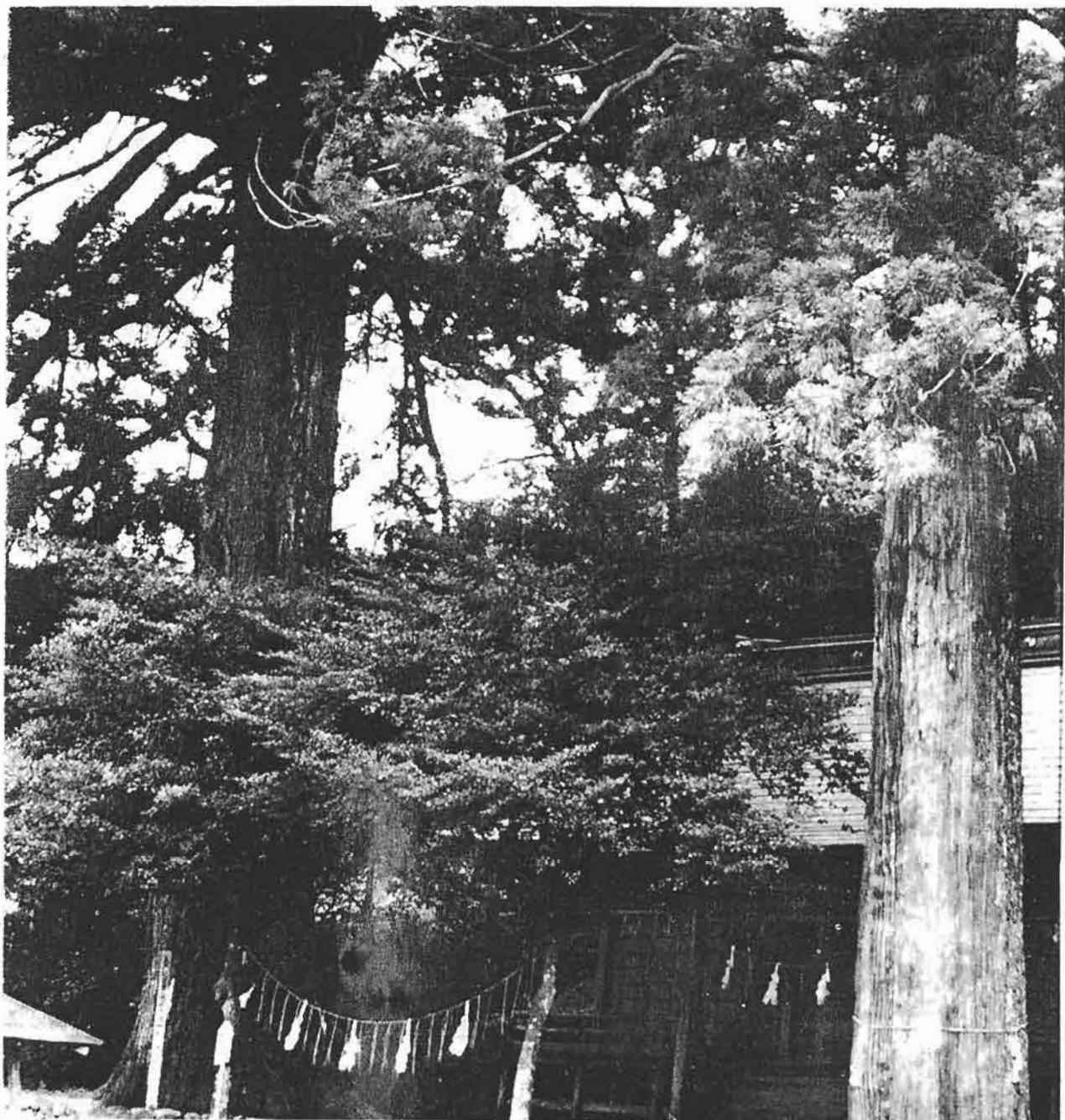


中川根ふる里通信

= 第12号 =

編集・発行・モアラフ中川根
連絡先 〒428-03
静岡県榛原郡中川根町
上脇尾990
中川根町役場 設務課
ふる里通信
郵便振替口座(名古屋)7-81536



徳山浅間神社の鳥居杉
県指定天然記念物 別名夫婦杉

浅間神社は古来、病気平癒の神といわれるところから 2本の夫婦杉
は、その昔、願いがかなえられた記念の植樹との言い伝えもあります。

新年を迎えて

町長 緑嶋淳男



新年となりまして間もない七日朝、大行天皇崩御の悲報に接しました。幾度かの危機状態を乗り越えられ、長い闘病生活を続けられた陛下のご逝去は、誠に痛恨の極みであります。皆様方と共に謹んで哀悼の意を持げ、ご冥福をお祈り申し上げるものであります。

「戦争から平和へ、貧困から繁栄へと、激動の道のりをたどりました。『昭和』が終り、国内外にも、天地にも平和が達成されると願って、新しく『平成』の時代へと歴史的第一歩が踏み出されました。

郷里を離れて各地でご活躍の皆様も、健勝のうちに平成元年をお迎えのことと拝察申し上げております。昨年は、小川町の大井川に三十年ぶりで清流の復活した年でありました。

長年の悲願が実現出来ましたのは、川根三町の皆さんのがかけがえのない郷土の自然を守るために、一致結束して住民運動を続けて頂いた成果であります。町外在住の大勢の皆さんから、これまで寄せられた温かいご激励に対しましても、心から厚くお礼申し上げるものであります。

今年は、この大井川を災害の無い、安全な、正に母なる川として呼び戻す年であります。

幸い、県当局でも、只今高郷地区を中心とした浸水対策や、堰堤上流の堆積土砂対策に取り組んで頂いている所であります。洪水の度に、水害の危険に怯える必要のない快適な河川環境をとり戻すために、これからも町民の皆さんと共に頑張ってまいります。

ふるさと通信十一号にも、ご紹介致しました南赤石林道周辺整備事業も、お蔵さまで着実にその計画実現が図られつつあります。

只今宿泊施設建設中の尾呂久保地域から大丸山方面、更に先年静岡の自然百選に選ばれました山犬段一帯の豊かな自然は、四季おりおり、ここを訪れる人々を魅了するに十分であります。宿泊施設も、よいよ本年五月にはオープンの予定でありますので、皆様も是非お誘い合せの上、お出掛け頂きますようお待ち申し上げております。

新しい時代、平成元年に当つて、我が中川根町の益々の発展と、ふるさと通信ご愛読の皆様が、ご健康で、ご活躍頂きますよう、祈念申し上げます。ごあいさつと致します。



町のようす

中川根町
中野順一
中野英達
中野英達
中野順一
(下長尾)

西村藤一郎
西村藤一郎
(藤川)
板谷下郁郎
(水川)
長谷川下長尾
(高鄉)
本多富士正
(山口)

二月に中川根町議会議員の任期が満了となります。二月十一日に新議員の選挙が行なわれます。現在議員数は十四席。各の動向では立候補予定者は定員をオーバーするようになります。町の立法を司る私達の代表を決めるには選挙となつた方が町民の意図は反映されると思ひます。今回任期満了になりました議員の皆様は次の方々です。御苦勞様でした。(敬称略)

*次回号では

新議員に抱負をインタビュー
したいと思ひます。

町議会議員任期満了

中川根町消防団の出初式が今年も盛大に挙行されました。式典に続いて、団員による訓練を披露。大井川原における放水、各分団(十四分団)のポンプ車からの放水は圧巻で、水の力でテンが幾重にも出来ました。昨年は中川根町においても二件の火災が発生しましたが、町民の生命と財産を守って下さる自衛消防団員も、町内で働いている男性の減少により、団員の確保も大変になっています。

町内団員約三百六十名のところ、現在三百三十名ほどの消防組織となつております。若者の地元はなれも一因とも思われますが、年齢的な事情もあるようです。厳嵩な出初式を経験しておりますと、中川根町消防団に対する期待と、この聖職に務めております団員の皆様に深く頭が下がります。

消防出初式 一月五日



祝成人



・タイムカプセル、掘りおこし

中央小を卒業する時、「成人式に掘りまくう」と約束し、校門横に静かなねむりについていたタイムカプセルが、成人した昭和55年度卒業生の手で掘り起されました。1組担任増田晃先生、2組担任沢村やす先生を迎え、久しぶりに小学生の時代にもどりました。懐い写真、学年帽、作文、夕宮メダルなど、色も変わり雨水がしみてはいましたが、20才の門出にかけがえのないプレゼントとなりました。

今年も中川根町に生まれ育った若者達、男子八十一名女子五十七名計一三八名が成人しました。山村開発センターで町が成人式を催してくれました。百名を超す成人者がお祝いを受けました。正装の男女が大人である自覚をもって誓つたことは、わたくし達は、ここに成人に達したことと深く自覺し、満二十歳にいたる今日まで限りない愛情をもつて育ててくれたさうな父母とは、め、多くの方々に心をこめて厚く感謝するとともに、さらに健全な身体と精神を養い、新たな決意をもつて社会のために貢献することを誓います。平和な時代、経済も豊かになつた時代に育つた成人者諸君には、不幸な時代貧しい生活を理解させたくはない、新しい未来に向って元気に進んでいってほしいと願います。

母校は今 上長尾小学校

六校運動会優勝

校庭より出品



昭和7年度(8年3月)上長尾小学校高等科
卒業記念写真。写真提供中央小学校

思ひ出 久野二郎

私は大正十四年に入学して昭和八年に高等科を卒業した。一年に入学したときの校長先生は朝比奈清作先生で受持は下長尾の山本詮み先生であった。

同級生は三十六人だったと思う。運動場はテニスコート一面とれるくらいの小さなものだったので、運動会は川原をみんなで整理してコースを作りそこでやった。清作先生で受持は下長尾の山本詮み先生であつた。

同級生は三十六人だったと思う。運動場はテニスコート一面とれるくらいの小さなものだったので、運動会は川原をみんなで整理してコースを作りそこでやつた。小生は運動場に高等科の生徒を含めて二十五人余の子とも達が走り回っていたのがうれしかった。一年生は教室のすぐ前に向って石けりや小石をはじいて陣取りをやっていたと思う。

校門のすぐ左に大きな銀杏の木があった。今も元気に育っている。したれ桜は残念ながら今はない。

校門の正面に職員室があり八人の先生がいらっしゃった。校長先生はその隣りの小さな教長室においていた。それに繞って二年生の教室門の左側に上級生のいる式場校舎右側には校長住宅や物置がありその外側は崖になつていて塀があり堤防道路があつた。

式場校舎の西側は役場や茶畠があり、役場の井戸水は大変うまく先生や役場の人達が見ているかどうか同じながらコソソリ飲みに行つたがとてもつめたくおりしかつた。

三年生から週一回行われる合同体操に参加するようになつたがよく

騎馬戦が行われた。高等科二年の大きめの人達にオブツたり馬に乗せられてやつた。始めの頃は走るのが早いことと大きな馬がブツツかって来るのを恐くしきり肩につりまつていたことが思い出される。

昭和五年の四年生の時大井川の川原で六校連合運動会が開かれたが、随分賑やかで、それそれの学校毎に數か所にもしうの控所にはのぼりや吹流しが何本も立つていてとても奇麗であったことが思い出される。当日熱狂したのは最後に行われた。

四年五年一人づつ六年二人で編成されて行う六校対抗リレーであった。控所では生卵攻めて争つたものだった幸いにして上長尾小が男女とも優勝した。今でもその時の写真は残っている。

六十年前のことと記憶は薄れていますが、杉皮草瓦葺の平家建での木造校舎だけは鮮明に思い出され懐かしくてこみ上げてくる。



銀杏の木はもうすぐ80歳になります。明治の終りごろ朝鮮と日本の合併記念樹として植えられました。星谷校長先生が鉛を入れられ、二股に分った木を友達とささえた思い出を語る人も今年は88歳になります。

道路拡張、校舎新築の為に何度も移植に轉じて切斷されたが時代を越えて上長尾川の子供達を見守つて来ました。これからも中央川をずっと見守つてほしいと思います。



大井川原運動場における6校合同体操

上長尾小学校の歴史

浜松県(明治九年八月迄)は明治六年六月学制施行に関する規定を定め檜原郡では十三所が指定された。その一校が長尾学校(十一年より上長尾小学校となし)で、七年一月二十一日智滿寺にて開校され、一家山以北、大間までの十三ヶ村を学区として分校を置き、九年十月分校が独立する。

開校時生徒六十名、初代校長近藤鶴太郎、学区長ハ木又左衛門、幹事河村三郎左衛門氏であった。

現中央小学校地は大井川河岸段丘によつて造られた台地とよつて有史来、大井川、長尾川の氾濫にも水流に洗われる事の無い土地と言われています。檜原郡史によりますと現小学校の池(ブール)は桶の大樹があり、すて樹令媛百年木の周囲十五メートル、幹は亭々として空にそびえ、千枝万葉落々と地を走り、狐狸が群をなし、猪鹿が徘徊一人を奇せつけた。境内であった、樹下に小祠があり、昔々客後になり、諏訪明神山の神も祀られていた。明治維新後寺社統廃合令が出され、上長尾八幡神社に合祀されました。諏訪社のはかに上長尾地区に十社四寺(智滿寺に合)が廢社寺となりました。九年四月三日高郷移転地に長尾学校が新築移転されました。当時学校建設費用の一部に、廢社寺敷地を民間に売却した事、木材は官林私下げ敷地外は地元萬志家の寄附によつたことなどが書類に残されています。

明治九年から昭和五十三年現校舎建設まで増築を含め、七回ほどの増改築があります。建設の為に土地を墳するにびに夕宮の池の土器、石器などが出でしまして、ひつて小字名がほつとつじと称されたと言われる。とにかく人骨なども発掘されると故人から聞きます。ばかり第六号でも紹介しました昭和二十七年発掘の土偶により、縄文中期後期の遺跡として有名になるわけです。又前期大楠樹は明治年代役場建設の為に伐られ同池はのち職員住宅になり忠魂碑の場となり、昭和四十三年ホールが建設されました。又役場も現在地に至るまで小学校附近で三回場所が変わっています。

戦後六・三割が施されるまで、初等科(何度かの改名)六年(当初四年)高等科二年制があり、上長尾小には高等科が設置されていたため、旧中川根の入野脇から水川まで下泉の子たちがわり、遠路上長尾小学校へ通学していました。昭和四十一年田野口小が合併され、その名も中央小学校と改められ、昭和四十七年には水川小が閉校、水川区の半分が中央小に統合されました。昭和四十九年開校百年的記念行事が行なわれ、記念碑が建てられました。

小学校 川根地方に上り、ありと一默視され、知性の伝統を受け継いだ学生。名前は変わったといえ、百十数年同地に在し、町の施第統合小学校においても、他校が別地に新校舎を建設したのに対し、中央小学校だ

けが同地夕宮の丘に建つてゐる事は、地元にとっても卒業生にとっても誇りであります。平成元年児童数一六四名



太井川鉄道徳山駅を降りると、中川根町で一番広い地区、徳山があります。教会があり、高等学校があり、素的な所です。今は同じ町民と申しますが、甲子年でも、旧中川根村と徳山村では、風俗文化、気質と様々に相違が見られます。大内富士夫さんから地区的事を伺いました。現在製本中の沿革史も参考にさせていたしました。そこで、今回徳山地区を案内します。大内さんは、前期の様な相違の最大の原因は、徳川幕府の大井川政策と駿河の国が幕府直轄の政治体制だったのに対し、遠州が二つ、三つ回り道しなければならなかった事ではないか。とおっしゃいました。大内さんは町議を六期務められ、現在議長職にあられます。父の龍虎さんは、旧櫻山村村長助役、收入役議員等村の要職にあり、と四十余年郷土の発展に尽力された方です。

徳山地区

徳山の地は古く地質時代には、大井川の環状曲流による砂礫の堆積や凹盤の隆起により、形成された河岸段丘の中之段野志本、正島の段丘及び森の段丘を中心に、北東南の三方は赤石山系、無数の連山の支脈の山々を境に、西方は大井川に面した直径約二キロメートルほどの円型に近い盆地状の地形をなしております。詳らかではありません。

原始、縄文時代の晩期には、大井川流域の河岸段丘に人が住み、堅穴式住居により、小集落をつくっていたものと言われています。この縄文時代の遺跡として、金の口遺跡、下村遺跡があり、遺物採集地として、中之段森え段、正島からは石器、土器が採集されております。弥生時代の遺跡や遺物は、ほとんど不明ですが、それまでの移住生活から定住化し、この地にも原始的な畑作、焼畑農業が行なわれはじめていたのではないかと思われます。

平安時代に入ると、荘園制の中に入れられたと考えられ、「和名抄」によると、大津庄、徳山郷堤、賀社（後に牛頭天王、現徳山）の記載があり、また、頃村は、武田氏の没落とともに、櫻川家の支配下に置かれました。江戸幕府開設、慶長八年（一六〇三年）以後、二六〇余年、江戸幕府の直轄地となり、駿州志太郡堀之内村として代官の支配でした。

（神社）仁和元年（八八五年）御嶽神社、仁和三年（八八七年）浅間神社、八幡神社、天喜三年（一〇五五年）創建などの記録もあり、すでに集落共同体としての村が形成され、土地の豪族を頭に、百姓や実力者が中心となり、祭りごとなども行い、自治組織をもつて、いたものと想われます。南北朝時代、南朝方の豪族、鶴賀太郎（土岐山城守）は、森之段の館に在って、広く徳山郷一帯を支配していました。文和二年（一三五三年）、足利尊氏の命を受けた北朝方の今川範氏の軍により、徳山城（無双連山頂）は他の支城とともに攻略され、平安時代末期から続いた土岐氏の支配はここで終りを告げます。



徳山の地は古く地質時代には、大井川の環状曲流による砂礫の堆積や凹盤の隆起により、形成された河岸段丘の中之段野志本、正島の段丘及び森の段丘を中心に、北東南の三方は赤石山系、無数の連山の支脈の山々を境に、西方は大井川に面した直径約二キロメートルほどの円型に近い盆地状の地形をなしております。詳らかではありません。

原始、縄文時代の晩期には、大井川流域の河岸段丘に人が住み、堅穴式住居により、小集落をつくっていたものと言われています。この縄文時代の遺跡として、金の口遺跡、下村遺跡があり、遺物採集地として、中之段森え段、正島からは石器、土器が採集されております。弥生時代の遺跡や遺物は、ほとんど不明ですが、それまでの移住生活から定住化し、この地にも原始的な畑作、焼畑農業が行なわれはじめていたのではないかと思われます。

平安時代に入ると、荘園制の中に入れられたと考えられ、「和名抄」によると、大津庄、徳山郷堤、賀社（後に牛頭天王、現徳山）の記載があり、また、頃村は、武田氏の没落とともに、櫻川家の支配下に置かれました。江戸幕府開設、慶長八年（一六〇三年）以後、二六〇余年、江戸幕府の直轄地となり、駿州志太郡堀之内村として代官の支配でした。

(3) 耕地整理、明治四五年頃、お米を食べようと田んぼづくりをやりました。(字島・田森・根崎地区)が水路が出来なくて失敗した。

(4) 天保七年(一八三六年)堀之内村開田計画、青部村中島から堀川開き工事を施行しかし引水に成功したものの水路維持困難のため中止、明治三五年再計画し中止、同四五五年中え段にて揚水によるかんがい事業を施行するが不成功に終った。

(1) 桜蚕山、養蚕がさかんになって来うづれ天然蚕による産地をつくろうと考えた。天然蚕はクヌギ、コナラを食べて大きくなつたまではよかつたのですが台風が来て皆落ちてしまつて一夜の夢となつてしましました。(現在もその附近を桜蚕山と呼ばれています。)

(2) 養鮭、やまとひで蛋白質資源に鮭を食べようと考え釜の口(現根津さんあたり)で鮭の卵を買って来て孵化させて大井川へはまきました。四年後を期待したが暖流、暖国にて帰らぬ魚となりました。

(註)四五年前と比べて人数の減少は江戸時代の三大飢饉、享保天明、天保の大凶作と疫病の流行が原因かといわれています。



ふる里紹介

名主組頭、百姓代の村方三役が置かれ、五人組の割合しかれて村の自治が行われました。
「中川根町史」より主なことを抜粋しますと

・寛永二四年(一六三七年)

水野監物による検地

・寛永二八年(一六四二年)

正島で製茶運上金古茶で物納

・万治三年(一六六〇年)

島田代官新畠検地

・元禄五年(一六九二年)指玉帳より

家数一七五軒(本村一五五軒、庄島二軒)

男女数九十二人(本村八十八人、左島一〇三人)

馬六七頭



徳山神社祭典、写真提供教育委員会

徳山地区は水利が悪かつた事で水田開拓に何回か挑戦失敗に終りましたが現在も冬場の渇水期水道断水の事例が何回かあります。今年三月、樺原川水源の水道施設が完成致りますから、清冷な水があり、その扇状地(昔桃沢が山崩をおこしてお来たし)には水が伏流してしまったために川(次)に表流水が無いわけです。場所によっては地下ハロメートル位埋らないと地下水にとどかないと言つことです。又桃沢は大雨になると川があれるので、現川根高校附近は竹藪にして桃沢に土手を築いてます。竹藪が桃沢の土砂の流入を防ぎ、次に土手で人家への水の流入を防いだとの話も伺いました。農業用水のためには肥沃な馬牛を倒したり茶畠は霜害にあわぬよう傾斜地に作り、平な所は畑に利用したといわれます。古り歴史と伝統を守り常に新しいものへの挑戦をしていく向上心が徳山地区には見られます。現在朝夕川宿高校へかよう若人達の声を聞き、矢崎計器工場、山元工場など工場にかよう人達、山の子村へ研修に来る他町の子らを迎えるこの地区は、とても幸的なところです。

郷土の偉人高木士太郎博士

みすたろう

静岡県特に川根地方には、昔から傑出した人物が少ないとわれます。大臣、大将といった頭官の名は、たしかに郷土の歴史には見当たりませんが、ここに紹介する高木士太郎博士は、日本で始めて神学博士の称号を贈られた誇るべき郷土の大先覚者です。のうちに東京の青山学院院長となり、明治から大正へかけてのわが国の宗教哲学界に高くその名を知られた人々です。

すでに故人となられて久しい人ですか、その多彩な学問研究の生涯とキリスト教的ヒューマニズムに纏された高潔な人格は、限られた人々だけの間の云い伝えとしてとめるには余りにも惜しく広くこれを紹介するとともに、わが郷土の人間の歴史として記録しておくために、故博士のご子息にあたる高木二郎氏にその伝記を寄稿していただきます。なお筆者の高木二郎氏は大正八年東京大学理論物理学科卒。その後直ちに海軍に入り、兵器や航海関係の技術者として活躍、少将相当官にまで栄進されましたが、終戦によって退官。郷里高郷にあって農業のかたわら専門の著作などにこ瘁されております。

高木二郎氏も十数年前に故人となられておりました。

伝記は

四十才頃の高木士太郎博士



の四節にわけられ、全文五三〇字の長文ですので、以下順次号を追って連載の予定です。

(一) 生い立ち
(二) 心境の変化
(三) 活動時代
(四) 性格と生活



長文ですので、以下順次号を追って連載の予定です。

わが父を語る 1. 生いたち 高木二郎

※※※※※

私の父高木士太郎は今から九十九年前(現百二十五年)の元治元年五月二十日、高木源左エ門、そのの長男として本村上長尾のうちの高郷部落に生れた。父は幼少の頃から利発で聰明に愛されたが、唯身体が弱く果して読み耽り、しかもそれらをよく消化吸收して自分のものとし、たので先生や両親その他の人の驚異的と云つた。それと同時に父は子供ながらに大きな夢を描き、家業の農業を嫌い、せまい山村に閒しこもって一生を終りたくなかった。というのは明治初年の頃急速に我が国に浸透してきた文明開化の波に読書を通して強くやすぶられたからであった。両親特に母は愛児の離村に極力反対したが、長男の権利も義務も打ち捨てて、明治十年十四才の時遂に家を離れ、掛川村に漢学を講じていた周田清直氏の家塾に入り、ここに起居して満一年漢学を学んだ。然し漢学は父の雄志を満足させる所とならず、一層高度の知識を得ようとし、その資金稼ぎのため、小学校の先生となつて、明治十四年五月十八まで同校高等師範科を卒業。同年八月駿東郡御殿場村在の中郷小学校校訓導となり、ここで二年半勤務した。

この間父は学生の訓育に大なる力を注ぎ、大いに彼等の収穫する所となり、また父兄達とも懇うなる交際をしたが、このことは後年(大正六七年頃)父の病後の静養地として教え子達が挙て父を招きあらゆる便宜を計ったことで如実に証明されたよう思われる。然し父は御殿場に於ける二年半を唯児童教育だけに費やしたのでなかつた。その旺盛な知識欲と研究欲とは飽く所を知らず、夜間は専ら新書、特に政治、歴史、哲学、文学の図書に読み耽り、夜半を過ぎて就床するという有様であった。この期間に前に抱いた将来への夢は相当に現実的な形と実現への計画性とを備えて来た。とは何十編という漢詩の詩作に端的に表現されてゐるのである。それらの巧拙は私には能く判らないが、故郷や父母を遠々と徒歩で或は人力車で高郷に帰り、母の顔を見て嬉し

2. 心境の変化

泣きに泣くという情愛を持っていた。父母との物語り、同窓の友との再会にも自分の心のあることを大胆に打ちあけたので、両親も遂に父の意中を察知して、家を継がせる、ことを思ひ留まるに至った。

明治十六年十二月二十日の時、遂に意を決して中郷小学校を辞任し、再び静岡市に移って県庁に入り、視学官として榛原郡各地の小学校教育の視察と指導に力を尽すことになった。これは当時の当時の政界で、自由民権論者の板垣退助・改進党の大隈重信等が相対峙して争い、世論ごうごうしたる事期で、父は改進党に傾き、大隈重信を支持し、自ら政治演説をする程の活躍をしたとのことだが、政治活動を通じて、御殿場に留ることの不利を悟り、まず静岡を経て東京に出る計画を練つた。要するに父は、当時政治家をして出世をしようとしていた際に、たまたま県教育関係の推す所となつて、一先ず片田舎を離れる決心をしたのである。父は静岡に於て将来のために更に大いにその頭脳を研磨し、実力を付けようと考えていたのであった。

再び静岡に移つてからは日々の仕事はかなり忙しかつたが、毎月各種の新聞で東京や国内政治、国際問題のニュース、或は論説を読む機会ができたことを非常に喜んだ。勿論、読書研究とも益々強行し、更に各種の講演会にも出席して知識欲を満し、從つて将来への大望も益々大きさを増していった。交友も多く、互に講論して相互に想を練り合つたが、後に有名となつた文学者山路愛山氏とは最も深く交り、その親交は山路氏が大正五年に亡くなるまで続いた。

このようにして、あらゆる方面に亘る知識を漁つて自らをふくらませている間に、父は心の空虚を感じ、それが何故であるかを知ろうとした。青年客氣にはやつて志を政界に到し努力奮斗する間に、父は人生の何者であるか、に就て深い疑問を抱くようになつたのである。自己を反省し、人間としての本当の在り方は何であるかを掘り下げる心が動いたのは、實にこの時期であった。

稀々カナダメソジスト教会でキリスト教の説教を聴くに及び、人は単に知識が博く深いだけでは人としての資格のない、こと、この社会的物質生活以外に人は純真なる精神生活を追わねばならぬこと、金銭や物質だけにあがれて靈魂の世界を知らすに終るのは、動物の生活と異

る所がないこと、などを悟り、自分の本来の使命は、人生を人に授けるだけでなくて、もっと偉大な仕事即ち万能の神の國の存在を、すべての人に伝えて美しい平和な社会を実現させるにあるのではないかと煩悶した。その結果遂に意を決し、当時はその勢力甚だ微弱であったキリスト教会に盛んに出入りし、遂に明治十九年秋、前記教会で盟友山路氏と共に洗礼の儀を受け、以後死ぬまで抜けんばかりキリスト信徒となつたのであった。

教会に出入りすると同時に、英語の勉強に喰い下り、読み書きと会話に力を注ぎ、忠ちにして相当自由に英語をこなせるようになった。父は最初漢字より入り、諸種の学問に就て研究したが、英語を勉強するに到つて、眼界が一層開け、英語の聖書は勿論のこと、英文学書や歴史書などを解説し、外人宣教師に訓えを仰ぐこと頻りであった。これは、自分の使命を完全に達成させるためにはどうしても外国に留学して宗教の眞髓をしつかりつかんでこなければならぬと秘かに計画していたからであった。

このようにして父が勉学に熱中し精神修養に努みながら漸次大きく開眼していくのは、二十二歳頃から二十七歳のこと、この五、六年間は實に父の一生の転期を形成したものと言つていいと思う。外人宣教師（カミンテー等）は並々ならぬ父の努力の生活と純真さ、才能のひどく優れていよいに感服し、頻りに一層高等な学問を受けることをすすめ、友人知己も亦これを父に説いたので、當時勤務していた羨望の県吏の職務をなげうつて、明治二十三年二十七まで上京し、麻布区鳥居坂町にあるキリスト教の学校、即ち東洋英和学校の神学部に入学し、キリスト教神学の研究に専念することになった。多くの外人教師の指導の下に父は、ここでもその頭脳の鋭さを發揮し、彼等の讃嘆の的となり、又大いに彼等に愛され且信頼された。その結果が、また在学中にモ拘らず、抜擢されて明治二十五年二十九まで麻布メソジスト教会の牧師に任せられた。そして翌年三月三十まで神学部を未會有の優秀な成績で卒業した。その優秀な成績の故があるいは父の人格の謹厳にして、高潔なることを認められてか、かねがね父の念願であった外國留学の素志が承認せられて、キリスト教会の役員会議は挙て父をカナダに留学させることを決議した。父の内心の喜びは非常のものであつた。そして明治二十八年にカナダに渡り、トロント市にあるピクトリア大学神学部に学ぶことになった。これは、当時に於ける屈指の最高學府である。（父は新約聖書神学書を専攻し、終如抜群の優秀な成績を挙げ、多くの外人学生を後輩に贈若たらしめるうちに、明治三十一年三年間の研鑽後バチエラーオブ・デビニチーの学位を充ち得て、同年暮に無事帰朝した。實に齡三十五才、父の意氣は誠に軒昂したものであった。）

中川根町 (3)

おおふだやま 山頂附近で

小川喜吉

濃い霧の中から浮び出るよう
赤色のヤシオの花が咲くといふ大札山
海拔二三七四米の東斜面は
頭を下にして現りてみ了も
木立ちも見えない程に
大きく崩れている



はるかな地点からの
私には伝わつてくる
大札山に棲息するといふ
確アオ鳩の啼き声とおぼえ
かさで

尾根づきの道も兼ねた登山路には
いま
頭と肩で雑木を搔き分けながら
一人の登山者が歩いていることだらう
登山路はそれと分からぬほどに
雜木で闊させられている
どうして三角点を求めるのか
おおふだやまの三角点は
山頂よりもひどく低い所にあるといふのに



地図を片手に握りしめ
息を切り
登つて来る人の心が
こころでじつと
入の心が
いつのまにか
満たされて行くありさまが
深い色に変わる霧のようだ
大山小屋に腰を降ろしているだけでも
さうはひととき高く抜け出して
花を吊るしていることだらう
花ドウダンも
ウラジロドウダンの花が
忘れられそうな白さで
谷あいからの風に震え
群衆よりも白い白花ヤシオの
群衆生林だ
その根元では

三角点近くの
人の影もみられない山小屋に
私は腰を降ろす
見に行かなくても私は分かつて
東から北へ回つて行った斜面は
比較的ならかで
霧よりも白い白花ヤシオの
花を吊るしていることだらう
花ドウダンも
小さく鉛を並べた格好の
花を吊るしていることだらう
花を吊るして
春を呑み込み
芽を吹いていたに違ない
もう早い落葉松でさえ



年の暮から正月、腰団とは言え、春を待つ日々。幾年月繰返されて来たのだろうか。ふる里古来の地区的行事、家の行事があります。太平洋戦争後、昭和40~50年経済高度成長期、女性就労と時代は変わり、やきが(田舎)でも、古来よりの言いつたえ、行事など風化しているのが現状です。その様に中、皆様には「ああ、こんな事があったんだ。」と思いましていただければ幸いです。地元の者は、家風、伝統の跡絶え復活出来る様努力したいと思います。

12月22日(頃) 冬至 「かぼちゃ」を食べると長生きするといつて必ず食べる習慣があつた。

28日、30日 餅つき 29日には、餅つきや、松(門松)とりはやらない。
餅つきをし、供餅、鏡餅を、神棚、仏壇に供える。

31日 大晦日 門松を立てる。家の内外を清掃し、正月を迎える準備をする。

年越せは、そばを打って食べ、健康で年越せを祈る。

年とり。神社でいたいた御幣(火鉾)で、家長が家中をおはらいし、清め、(人も)川原で焼く。夕方より夜にかけて、ごちそうを食べて、一年の勞をねさらう。

1月1日 正月 門松、家の入り口(玄関)に左右一対の松(竹、梅)の飾りを作る。
しめ縄飾り、神棚、玄関、門松、地の神、井戸神、かまひの神、荒神様にしめ縄飾りを施す。

鏡餅は心臓を意してへろと言われます。

五節句について

陰曆(昔)の1年中の主な節句。

1月7日 入日(じんじつ)

3月3日 上巳(じょうし)

5月5日 端午(たんご)

7月7日 七夕(しちやき)

9月9日 重陽(ちゆうよう)

年中行事

正月前後の巻



おせち料理

正月、五節句などに使う料理

きんとん、黒豆、ようかん、なます、うま煮

きんびらごぼう、しらあえ、伊達巻、かまぼこ

早朝、家長が神前に供えた神酒
を家族全員に盃にて回し飲みし、1年間の
厄病厄災を祈りました。

水を汲んで神棚に上げる

若水ぐみ

年始廻り、
持賀式

明治大正時代は、紋行、榜に衣服を整えて、親類を回った。

昭和30年頃まで、持賀式が、小学校で行われ、部落の人達も参加した。
子供達も上着、下着まで新しいものに整えられていた。

工人は始めて道具を試み、商人は店開きし、表り初めをした。

2日 仕事始め
書初め

7日 七草かゆ



入日(じんじつ)、七草がゆと言って、前日中に、せり、なすだら、ごときゅう(ほは:草)
は:べ、ほ:けのさ、すずだら(かぶ)すずしろ(大根)の七草を搾り、
またお盆の上に置き、6日の夕刻より7日朝迄に

「唐土の鳥が日本へ渡らぬ先に七草なすだらストントン」
別地区は(上記のうたいがなまつたのか?)

鳥が柿の木にとまる前に(朝早く起きて)「七草なすだらストントン

とうこの鳥が渡らぬ先に、七草なすだらストントン」と庖刀の背にて叩きながら、調子を附けてうたい、これを臼粥に入れて食すれば、邪氣をはらい、万病を除くと言われています。

初めて歳を開き、餅をさげて、親類やしろこに入れて食べた。

11日 岁開き
(鏡開き)
田打講

農家では、田の縮株を打起して、萱に切物を附けたものを、松と譲葉の
小枝と共にさし、飾餅(小片)を供え、豊穣を祈る、田打初とも言う。

餅をついて歳傳神に供げる。

14日 年越

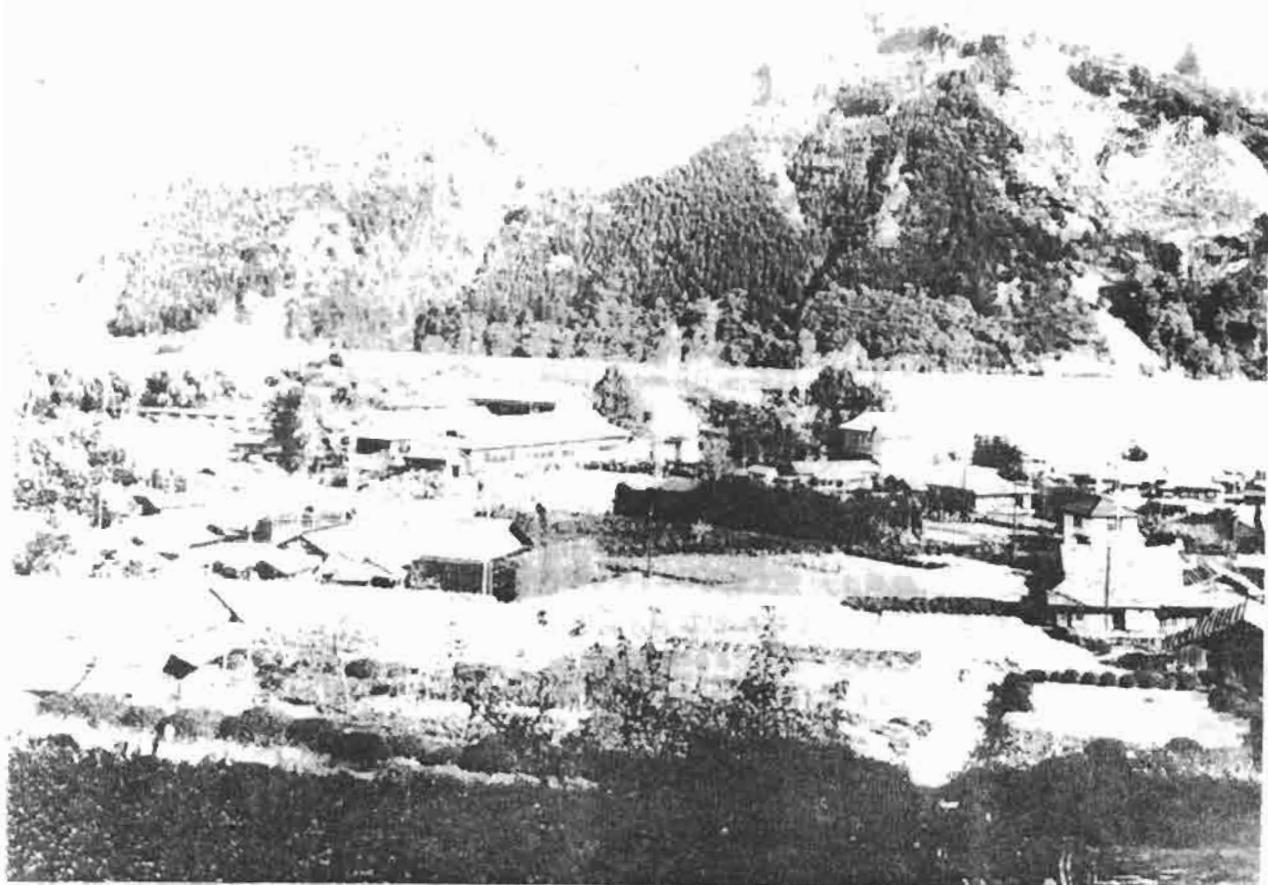
マユ玉、養蚕家に於ては、マユ形の団子(餅)をつくり、これを柳の枝先にさし、神、仏に供えて、蚕の豊作を祈った。

15日 小正月
(もちい)

小豆粥を煮、餅を交せて、神仏に供へ、萱のはして食べた。

2月3日(頃) 節分

焼案山子(せりかかし)といって、番木(はんば)の小枝の先端に割込を入れ
はんばに包んだ、イワシの頭をはさみ込み、玄関、脇ま口横に立てかけおく。
豆苗きの豆もはんばを入れて鍋でいり、夕刻、「鬼わ外、福はうち」と叫
びあり、そのあと、(自分の)数だけ、いり豆を食べました。節分の豆は、
少し残しておき、夏闇がなる時食べると良いといわれました。



昭和10年代の上長尾小学校。中央右の建物は中川根村役場。写真提供 中央小学校

定期購読のお願い
中川根ふる里通信は有料発行です。

1部 〒共 100円

皆様の定期購読がふる里通信の発行を支えます。年間4回(季刊誌)の発行を予定しております。誠に恐縮ですが、今年夏の号(14号)より1部〒共150円にさせていただきたくお願いします。一層の紙面充実に心かけたいと思います。

今回で購読期間の切れる方に郵便振替用紙を同封致しますから引き続き御購読をお願いします。なお購読期間が切れて半年以上定期購読料が振込まれない場合は自動的に中止とさせていただきます。

お問い合わせ

TEL 0547(56) 0015

小沢節子

払込通知票

口座番号 名古屋<7>-81556

加入者名 モアラブ中川根

ふる里通信係宛

母校は今、上の上長尾小学校で、写真スペースが無かったので、上部に載せました。三リースも残すところ、二枚(北町内分校、地名中学校)となります。三月には、地名小学校が統合廃校となりますので、地名小学校特集にして、と考えております。

昭和天皇崩御に謹んで哀悼の意を捧げます。七日朝よりテレビ報道され、時間が流れているように思えました。今は子供達が歌わない童謡が耳をかたむけますと、出て来る歌声はみな知っているものは歌の頭の中にちゃんと記憶されていました。大晦日の紅白歌合戦の歌は、曲も歌詞も、と言うのに、民謡童謡の伝承はやうなければいけないと思いました。

平成元年一号と言うのに、登場があくれてしまい本当に申しわけございません。又御支援激励のお手紙いたしました。ありがとうございます。今年もふる里通信頑張ってみます。皆様よりの御見原稿お待ちしております。では又春の号にて